

事業所名

グループホーム青空

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成18年 3月31日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 生活指導員

資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員

B:現職 元介護支援専門員

資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

調評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○2ユニットのグループホームで、市郊外の国道より少し入った山懐にある。西河内川のほとりの開けた田園の中に位置し、静かで交通の便も良い。

○「青空」のネーミングは、職員の一歩多い意見を取り入れ、ホームの理念「明るく穏やかな暮らし」をイメージしている。各居室には洗面台を設置している。また、トイレを設置している部屋もあり、清潔で快適な生活を送ることができる入居者の表情は明るく穏やかであった。

○母体法人は医療機関で代表者は医師でもあり、専門的な認知症介護の指導が受けられる。定期的な往診があり、緊急時には直ちに对应してもらえ安心してホーム生活を送れる。

○ホームはバリアフリーを施し、心温まる木造でトイレの便器もピンクで暖かい雰囲気を感じさせている。防災カーテンを取り付け避難訓練は月1回行っており、住みやすく安全な住環境となっている。

○食事には特に力を注ぎ、入居者の考え・要望を中心にバランスの摂れた献立を工夫し、出来るところは一緒に調理している。職員は入居者と同じものを一緒に食卓で食べる共同生活の基本を実践している。

○介護に関する諸記録は揃い、業務・緊急時等のマニュアルは整備されている。職員は一体となってチームケアを行っている。現場職員の意見は代表者に直ぐ届き、職員の創意工夫を大切に生かしている。

○2ユニットはそれぞれ特徴・独自性があり、共同行事を行って交流を楽しむなどホーム生活を豊かにしている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

○改善すべきとして特に指摘する点は見当たらない。各ユニットの開設日が違いそれぞれ1年に満たないが、実に決め細やかで温かいケアが行われている。これから家族会などの結成や小学校・保育園児との交流を広めるなどして、地域にとって掛け替えないグループホームとなる事を期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ○グループホーム倫理綱領を掲示し、「グループホーム青空」の理念にある「入居者個人の尊厳を大切に、共同で明るく穏やかな暮らし」ができるように努力している。 ○ゆっくりとしたリズムで笑いと楽しみのある生活をしていただくように、心温まるケアの提供を目指している。 ○一人ひとりの生活のリズムを保ちながらゆったりと過ごし、地域に溶け込んで地元のひととふれあい、自然の移り変わりを体感できるように様々な行事にも参加して普通の暮らしが出来るように取り組んでいる。 ○今までしてきた役割・仕事をあらゆる場面に組み込み、それまでの生活の継続となるように工夫し、のんびりとした自由な中に入居者がその能力を最大限に発揮できるように努めている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ○居室に持込居の少ない入居者には、飾り物・観葉植物・花鉢を置くなど居室の環境作りに取り組み、温かい雰囲気づくりに配慮している。 ○共用空間・玄関・外周りの畑・遊歩道等内外に居場所が設けられ、どこでも自由に過ごせるようになっており、ストレスの緩和に配慮している。 ○自由な雰囲気・温かい接遇・穏やかな態度で、入居者が安らぎと自信を感じられるように努めている。 ○新聞記事をピックアップして皆さんに伝え、そこから話題を作って自由に話す切掛けしてもらい、語り合って気分を楽しくするように心掛けている。 ○菜園では入居者によって旬の野菜が栽培され、敷地内には梅・すもも・八重桜が植えられ、自然とのふれあいを大切にする生活に取り組んでいる。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ○ワープロ・手芸・俳句などの文化活動、その他畑作り等の作業を通して過去の経験・記憶を呼び覚まして生きがいを引き出し、入居者個人の持てる能力を尊重して生かすように取り組んでいる。 ○個人記録はイニシャルで表記し、事務所の裡に保管して管理している。職員のみならずボランティアの人にも守秘義務を依頼し、不要な書類はシュレッダーで処分しており、入居者の個人情報厳重に守っている。 ○職員は苦情を前向きに捉え、入居者・家族の些細な意見もしっかりと拝聴し、検討して介護内容改善に役立てるように取り組んでいる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ○職員研修は掲示し、少しでも多くの職員が参加できる機会を作り、職員が積極的に介護資質向上に取り組めるようにしている。 ○入居者が見て欲する物を同じ目線で捉え、必要なだけ支援し入居者の自主性を温かく見守るように取り組んでいる。 ○認知症介護に関してあらゆる事態を想定してマニュアル化を徹底し、誰でもいつでも確実な対応が出来るように備えている。 ○軽微な事故・ヒヤリハットをも含めて漁らず詳細に記録し、転倒等事故防止対策・身体機能低下に伴う事故防止策・工夫等を改めて検討し、再発防止に努めている。 ○入居者の身体機能低下に合わせ、室内の必要な箇所に手すりを付けるなどの設備をその都度行っている。		